



2021年2月15日

各 位

会 社 名 株式会社アゴーラ・ホスピタリティー・グループ
代表者名 代表取締役社長 クォック・ゲイリー・ヤン・クエン
(コード：9704、東証第1部)
問合せ先 財務経理部 部長 石井 伸幸
(TEL. 03-3436-1860)

連結および個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ

2020年12月期の連結業績および個別業績の前期実績値との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2020年12月期通期連結業績と前期実績値との差異(2020年1月1日～2020年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	百万円 7,001	百万円 △53	百万円 △35	百万円 △198	円 銭 △0.78
当期実績(B)	3,316	△1,371	△1,354	△1,194	△4.70
増減額(B-A)	△3,685	△1,318	△1,319	△996	
増減率(%)	△52.6%	—	—	—	

2. 2020年12月期通期個別業績と前期実績値との差異(2020年1月1日～2020年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	百万円 321	百万円 △113	百万円 △114	百万円 △225	円 銭 △0.89
当期実績(B)	954	297	316	△1,552	△6.11
増減額(B-A)	633	411	430	△1,327	
増減率(%)	196.9%	—	—	—	

3. 差異の理由

(1) 連結業績

2020年2月ごろから新型コロナウイルス流行の影響により、当連結会計年度における連結売上高は前年度のおおよそ半分である3,316百万円(前期比52.6%減)となりました。客室、レ

ストラン、宴会を含むすべてのホテル運営に多大な影響を及ぼしました。一方、費用面ではホテル運営における人件費、水道光熱費、修繕費、賃料等の金額の大きな固定費用を削減したほか、本社部門の費用削減を推し進めたものの営業損失1,371百万円(前年同期は営業損失53百万円)となりました。また、営業外収益として、豪州における不動産投資事業において、持分法による投資利益101百万円等を計上したこと、営業外費用として、支払利息99百万円等を計上した結果、経常損失は1,354百万円(前年同期は経常損失35百万円)となりました。特別利益として南麻布二十一合同会社が保有する賃貸用不動産に係る信託受益権の譲渡による固定資産売却益525百万円、特別損失として新型コロナウイルス感染症による損失349百万円を計上したこと等により、親会社株主に帰属する当期純損失は1,226百万円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失106百万円)となりました。

(2) 個別業績

2020年12月期において、連結子会社である南麻布二十一合同会社における信託受益権を譲渡したことに伴い、匿名組合分配収入を計上したことにより、売上高は954百万円を計上いたしました。これにより、営業利益は297百万円、経常利益は316百万円を計上いたしました。また、特別損失として、上記子会社の匿名組合の解散をしたことにより、匿名組合投資損失1,774百万円を計上したほか、子会社株式評価損93百万円を計上したことにより、当期純損失は1,552百万円となりました。

以 上